

附屬書類添附

第00250號

第5門

解カケテ送レテ
他ノ部ニ送ル
ハ内務省ニ送
ルガ故

大正元年八月五日發

警政務局

公信第一〇八號

第一課

明治四十五年七月二十九日

在天津

總領事小幡爾吉



外務大臣子爵内田康哉殿

天津ニ於ケル政黨ノ開スル
調査書送呈ノ件

本年七月末現在當地各政黨ノ現
勢調査書一部為御呈ノ考及送
呈候間御査閱相成度候致具

在天津日本總領事館

天津之於今政黨ノ現勢

(明治四十五年七月調査)

在天津日本総領事館

REEL No. 1-0933

0101

● 共和黨直隸支部

一、主義及綱領

- 一、全國統一ヲ保持シ國家主義ヲ採用ス
- 二、國家權力ヲ以テ進歩ヲ扶持スルコトヲ期ス
- 三、世界大勢ニ應ジ平和實利ヲ以テ立國ノ主義トス

二、事務所所在地 天津市河北宿緯路

三、成立期 本年六月

四、支部長 未定

五、幹事 梁志宸 (日本高等師範學校出身)

前順直諮議局議員、高等商業學校々長

吳鼎昌 (前諮議局議員、東京高等師範

學校附屬速成科出身)

在天津日本總領事館

張肇隆 (前諮議局議員、現在中華民報總理)

孫鳳藻 (水產學校長、天津議事會副會長)

鄧毓怡 (日本明治大學卒業生、現北洋法政學堂

教習、現直隸臨時省會議員)

六、直隸會員 嚴修 (前學部侍郎) 籍忠寅 李

榮 谷芝瑞 王振克 (以上參議院議員) 顏世

清 (直隸都督幕僚、現直隸臨時省會議員) 周鳳藻

(前諮議局議長) 徐沅 (現任津海關道) 胡

源滙 (早稻田大學出身、現津法政學堂教習、現

在直隸臨時省議會々長) 王輔仁 李晉 吳慈培

七、現在會員數 約七百名

八、本黨派、現勢、本年六月成立式、其後大

黨勢ヲ擴張シ、現直隸選出々議院議員

五名ノ内四名ヲ有シ且以臨時者議會、於テ毛約
半數ノ議員ヲ出ス至レリ本支部ハ恰モ前民
社黨員ガ湖北地方ニ於テ本黨ノ主腦タルガ
如ク前國民進會ヲ主腦トシテ成立シタルモ
コレテ其會員ハ殆ド全部袁世凱系統ニ屬
スルヲ以テ本支部ノ勢力ハ將來同盟黨派ノ主力
トナリ著シク黨勢ヲ伸張シ總テ當地方面
ニ於ケル同盟會ニ多大ノ壓迫ヲ加フルに至リ可ト觀
測セラル。

因ニ本黨ハ民社、國民進會、民國公會、
國民黨及ビ一新統一黨、併合組織ニ成レルモノナリ
九嶺新聞、特定、機關新聞紙ヲ有セサルモ
中華民報及ヒ民權報、兩社トハ特別ノ關係
ヲ有ス
在天津日本總領事館

● 共和統一會直隸分會 (統一共和黨ト同
ノ党派ニ非ラス)

- 一 主義及ビ綱領 本會ハ民權ヲ鞏固シテ政府ヲ監
督シ國家ノ統一進歩ヲ謀ルヲ以テ宗旨トナス
一 統一共和國體ヲ建設シ憲法ニ固定主義
ヲ採用ス
二 中央集權ヲ鞏固シ地方自治ノ權限ヲ確
定スルヲ期ス

三、軍政ヲ統一シ軍備ヲ完全ニシ義務兵役ノ制度ヲ
實行スルヲ期ス

四、財政計劃ヲ確定シ積極的整理政策ヲ實
行スルヲ期ス

五、國際均勢ヲ維持シ公正ナル外交政策ヲ實行
スルヲ期ス

六、邊圍ヲ開闢シ經濟的軍事的移民政策ヲ實行
スルヲ期ス

七、實業ヲ振興シ産業制度ヲ確定シ保護政
策ヲ實行スルヲ期ス

八、國民教育制度ヲ實行シ軍國民精神教育
ヲ重シム

九、言文統一ヲ提倡シ以テ五大族ノ同化ヲ期ス
在天津日本總領事館

十、人民ノ積極的政治思想ヲ發達セシムルヲ期ス
十一、司法獨立制度ノ實行ヲ期ス

二、事務所所在地 天津河北黃海路大成路

三、成立期 本年三月より具體的組織成立
同年六月當分會成立式ヲ舉行ス

四、支部長 未定

五、副部長 未定

六、幹事長 曹鏡 (前直隸布政使)

七、幹事 蔣樞奎 (前清安徽巡撫朱家奎幕僚
楊慶堃 (北京同文館日文科出身 現津浦鉄
路局總監督參事)

八、顧問會員 陸錦 (日本士官學校卒業生 現直
隸省軍事參議官) 胡源滙 (臨時省議會

議長) 王方瀛(警務云科長) 崔慶鈞(臨時省議會議員) 王寰瀛(前清徽巡撫朱汝賢(幕僚)

九、現在會員數 五百餘名

十、本党派ノ現勢 南北共和憲政統一會ノ後身、レテ共和宣布後現名稱、改メ本年六月末分會成立式ヲ奉行シタル以來、黨勢稍々伸張セラレタルモ未タ共和同盟因党ト鼎立ノ勢ヲ有スルニ至ラズ、現、衆議院議員中一名ノ純會員ヲ有ス、臨時省議會、於テ僅カニ二十名足ラス、議員ヲ有スル、過キス、並ニ其黨員ハ軍隊及ビ警備隊、關係ヲ有スル者多ク加フル、長世凱系統ニ屬スル新舊官僚ヨリノ幫助

在天津日本總領事館

少ナカラザルヲ以テ將來發展ノ餘地ナレトセス、且ツ一朝事スルニ逢ハ、共和黨ト相結ビ同盟會ニ對峙スルカ、或ハ俄ニ見テ全並共和黨ト併合ノ運ビニ至ル可ク到底同盟會ノ政敵タルヲ免カレザル可キモ、目前ノ適當地方ニ於テ共和同盟兩党ノ間、有リテ其調和者タルノ地位ニ在リ、免ク自本党將來ノ動靜ハ先公注意ヲ要スルモノヤラト思ハル

● 同盟會燕支部

一 主義及綱領 本會ハ中華民國ノ鞏固ニシテ民主主義ヲ實行スルヲ以テ宗旨トス

二 行政統一ヲ完成シ地方自治ヲ促進スルヲ期ス

三 種族同化ヲ實行スルヲ期ス

四 國家社會政策ヲ採用ス

五 義務教育ヲ普及スルヲ期ス

六 徵兵制度ノ勵行ヲ期ス

七 財政ノ整理ニ稅制ノ整理ヲ期ス

八 國際平等ヲ力謀ス

九 移民勸導事業ヲ重視ス

在天津日本總領事館

二 事務所所在地 天津河北三馬路

三 成立期 四十五年七月十四日

四 支部長 張繼 (後朱葆興等ト共ニ日本ニ在リ同盟會ノ事ヲ盡瘁セリ)

五 副支部長 王觀銘 (日本國文學校在リ早稲田大學出身 現在直隸臨時省議會副議長)

六 幹事 王法勤 (日本早稲田大學出身)

溫世霖 (排日派ノ一人ニシテ地方安寧妨害ノ虞ヲ以テ前清總督陳夔龍時代新疆ニ遣放サレ共和宣布後帰津)

王葆真 (日本早稲田大學出身 直隸臨時省議會議員) 邊宗靖 (日本早稲田大學出身 保定府師範學堂監督 現直

隸臨時省議會副議長)

隸臨時省議會副議長、郝濯（北洋優級師範學堂學生）、潘如遠（北洋法政學堂學生）、郭鳳洲（北洋大學學生）、沈鼎新（北洋師範學堂學生）、吳海瀛（陸軍學堂出身）

七、重ナル會員、關燾世（新燕報社長）

董俊（國凡日報社編輯員）

余鐘秀（國凡日報社主筆）

吳友石（國凡日報社社長）

呂復（國凡日報社長）

趙鐵橋（民意報主筆）

八、會員數六百餘

九、本黨派之現勢、直隸省官憲之壓迫甚々

在天津日本總領事館

カリシ為、共和宣布前、於革命の豫定、
運動ヲナスヲ得サリシ結果、今日近衛地方於
未ク政黨トシテ先合ナル企劃實行ノ機會
ヲ得ズ、後テ其黨勢を未ク豫期ノ伸張ヲ見
ルニ至ラザルモ本會ハ南支那各省、於テハ確カ
ク大政黨ナル基礎ヲ鞏固タルモノアルト近衛統
一黨天津支部會員一部ヲ併合シタルト
依リ漸ク多ク、勢力ヲ増進シ来リ、現ニ臨時
省議會ニ二名、副議長ヲ自當ヨリ兼任シ
得タルノミナラス四十餘名、議員ヲ有スルニ至リ、
然レモ本黨ハ絶対、袁世凱系統ヲテリルカ
上其會員ハ比較的年少者多ク、政治的閱歷
者ニ乏シク、勳を大シハ血氣、馳ラシ、臨海、改革

ヲ受ケ易キ弱點アリテ敵黨ニ乘セラル、ノ惧アリ其
執力威ハ近ク局面變遷ト共ニ已ニ稍々凋落ノ現
象ヲ呈スルニ至レリ其政敵タル共和黨及共和
和統一會ノ勢力カ日ニ伸張セラル、ナル、本黨ニ取
リ容場ナラザル打撃ヲナラント觀測セラル
十、機關新聞、國風日報、民意報

●國民協會天津支部

一、主義綱領

一、國權ノ統一ヲ期ス

在天津日本總領事館

二、國民ノ元氣ヲ培美良スルヲ期ス

三、民力ノ發達ヲ圖ルヲ期ス

二、事務所所在地 天津市河北縮繹路

三、成立期 本年六月

四、支部長 蔡儒楷 (現任直隸提學使)

副支部長 袁克文 (袁世凱第三子)

三多 (前庫倫辦事大臣)

幹事長 張慶桂

幹事 李士熙、張慶桐、何震、孫

耿漢

五、會員數

六、本黨派ノ現勢 本年六月成立式ヲ舉行

シタル以來大ニ黨勢ノ擴張ニ勉メ、ナルヲ

夕政黨トシテ活動スルノ地位、連々之ニ功カシ他
党ノ動靜、臣親シ居ルノ状態アリ、本党ハ
元來主義極メテ穩健トシテ會員モ亦主ト
シテ旧官吏及ヒ地方紳士、多ク氏党タラン
ヨリ、寧ロ政府黨トシテ大政黨ト提攜ス
ルニ至ルモノナラント觀測セラル、其幹計ハ過
般來水問題ノ開シ、協議ヲ重ネツ、アリ、將
來果シテ何シ、竟派ト連合ノ運ニ至ルニキヤハ
權勢ニ何附シ、易キ者、爲國人ノ性格ニ、堅シ、容
易トシテ、斷言シ、難キモ、其後來ノ、情形ヨリ、觀
察スル、時、勿論、共和党ト接近シ、アルモノ、ハ
如シ

在天津日本總領事館

初メ社會党、中華民團、自由党、直隸支部、
公民會、共和促進會、新民會、新直隸
會、五族聯合會、共和統一党、等諸團體
隊ノ組織アリ、各々、少ク、會員ヲ有セザルニアラ
ザルモ、其多クハ、勢力カアル他ノ黨派ニ、属スルモノ
ニシテ、到底、独立シタル政黨トシテ、勢力ヲ
有セザルモノナルヲ、以テ之ヲ、首魁ス

機密																					
清各公館																					
在長春領事館送第	在吉林領事館送第	在 チ、ハル 領事館送第	在間島總領事館送第	在局子街分館送第	在頭道溝分館送第	在珲春分館送第	送第	送第	送第	送第	送第	送第	送第	送第	送第						
二號	二號	二號	二號	二號	二號	二號	號	號	號	號	號	號	號	號	號						
在重慶領事館送第	在福州領事館送第	在沙市領事館送第	在杭州領事館送第	在蘇州領事館送第	在廈門領事館送第	在牛莊領事館送第	在芝罘領事館送第	在天津總領事館送第	在 上海 總領事館送第	在清公使館送第	在哈爾濱總領事館送第	在漢口總領事館送第	在長沙領事館送第	在南京領事館送第	在汕頭領事館送第	在奉天總領事館送第	在鐵嶺領事館送第	在遼陽領事館送第	在新民府分館送第	在廣東總領事館送第	
二號	二號	二號	二號	二號	三號	四號	三號	號	號	九號	三號	四號	二號	三號	三號	三號	二號	二號	二號	二號	四號
外務省																					



文書課長 大正元年八月拾日接受

大正元年八月拾日附

送第 第一課

主 務 務 局 長

大

大正元年八月拾四日通達

在支那公使

大正

各領事

支那 於之政黨結社

調査 開スル件

外務省

今般ノ事印ノ事案以テ支

那各地ニ於テ政黨結社

組織ニシテ其ノ勢力

各地ニ於テ其ノ勢力

社ノ状況詳細ヲ知テ

以テ其ノ管轄管内ニ公使ニ

地トナスコトニ

機密

中
於之 改定 及 終 終 状 况 而
調 査 亦 成 別 様 式 之 様 子
申 調 査 上 末 日 十 日 末 日
迄 申 出 出 出 出 出
様 子 亦 成 別 様 式 之 様 子
公 復 二 敬 呈 一

別紙様式送附白

外務省

一、愛名又、結社名

二、主業及細領

注意、^{本邦} ^{海外} 改細一例

一、款米、主業トシ又、親

英ノ傾向アリ業ノ款(シ)

属ハ

三、事務所ノ在り

治産支那ニシテ事務所在り

外務省

ヲモ、記スルコト

四、成立時期

五、役員及重ナル会員

注意、右ニ可成異態ヲ附記スル

コト

六、現在ノ会員数

七、其ノ勢力圏下ニ属スル重要

地方及在外者即人ト同任ナリ

八前清時代より有力者トノ
過去ノ現在ニ於テノ關係
九党ノ状勢

一成立以來ノ沿革ト其ノ
政界ニ於テノ勢力

二中央及地方政治ニ對シテ
黨

三他党ニ對シテノ關係
外務省

四地方民ノ氣受

五党ノ政治ニ對シテノ財源

六党勢ニ關シテノ將來ノ豫測

七附屬トシテ

法律、機關、新法、雜誌、経

済、旬報、學、我、合、報、圖書

出版所、等、有、之、ト、ハ、カ、ク

文、學、界、ノ、記、載、ニ、ハ、コ、ト

十一 其他

法皇 奉 項 三 以 上 諸 項 三 包
合 せ ら れ ば 特 殊 一 項 記

載 ス ハ コ ト

以 上

外 務 省

文書課長

大正元年八月拾參日接受

津島

大正元年八月十二日附

別紙

主任

機密

密送第

二號

第一課

主管 政務局長

大

大正元年八月拾四日達濟

天津

小幡如郎

大

支那：於之改革結社

調査：開之件

外務省

八月二十九日付公信第一〇八号
 貴信より、貴地に於て之改革
 一、現勢中報告あり、此
 際支那各地に於て之改革
 結社、状況詳細兼知照置
 知、付洽り、貴報答内（北京
 支那）に於て之改革及結社ノ状
 況、別紙様式に從て申

調知衣ノ且斗八十月未口迄
者久一御撰出之成以様付
此等中一宜也
別中様式送添付

外務省

文書課長

大正元年八月拾叁日接受

文書課長

大正元年八月十八日附

別紙

主任

主任

主任

主任

機

送第

五號

第一課

主管 政務局長

本

機密

大正元年八月拾四日謹言

上海 右考總領事

大正

支那ニ於テ之改定終結

調査ニ關スル件

外務省

本年五月三十日付機密第四三三號

貴省より支那ニ於テ之改定

國内市調査ノ結果詳細申

報者本國憲法ニ關スル

ニ於テ之支那各地ニ於テ之大小改

定終結ノ状況ニ調査中

付此際論ニ貴省管内ニ於テ之

改定及終結ノ状況ヲ別紙

様式ニ從ヒ市調製ノ上斗
十月未日迄ニ方々ノ市提出
お成口様式此等ノ追也
別々様式馬漆台

外務省

大正元年八月拾九日接受 主營政務局

大正元年八月拾九日接受 主營政務局

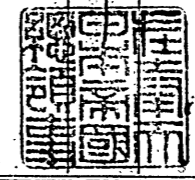
公第四七二號

第一課

大正元年八月十二日

在奉天

總領事 落合謙太郎



外務大臣子爵内田康哉殿

奉天ニ於ケル清國各政黨ノ状況ニ

関スル件

當地ニ於テ政黨ト稱スヘキモノハ東三省共和俱進會、共和黨、關外五族共和聯合會支部及同盟會支部、四團體ニシテ今其ノ組織及現在ノ状況ヲ叙述スルハ左ノ如シ

在奉天日本總領事館

東三省共和俱進會

本會ハ名奉天共和俱進會ト稱シ北京ニ於テ組織セル東三省共和進行會ト合体セルモノニシテ前署理河南巡撫齊耀琳ハ北京ニ於テ之カ會長タリ奉天ニ於テハ現任民政使孫百斛及都督府參議袁金凱其ノ領袖トシテ牛耳ヲ執リ本年四月始メテ其組織ヲ発表シ東三省ニ於ケル共和ノ促進ヲ以テ其主義トシ會員ハ凡テ東三省出身者ヲ以テ組織シ奉天ニ於ケル政黨組織ノ嚆矢ナリ而シテ北京ニ於ケル該黨派ニ屬スル會員ハ多ク革命ノ殘黨及新進氣鋭ノ士ヲ以テ滿サレ奉天ニ於ケル共和政策ノ進行ヲ

第3門

第四號

交01451號

々々ルヲ憤慨シ百方趙都督ノ排斥ヲ企テ
 一面袁總統ニ彈劾シ且ツ北京ニ於テ乃
 報ト稱スル機^機關ヲ察行シテ其政策ヲ批
 難シツアリト云フ然ルニ奉天ニ於ケル首領
 孫百斛袁金凱等ハ何レモ趙都督ノ部
 下ニシテ其恩顧ヲ受ケツアルヲ以テ到底北
 京派ト致ノ行動ヲ採ル能ハサルモ其他ノ會
 員中心私ニ趙都督ノ政見ニ反對ヲ唱ヘ北京
 派ニ通ズルモノ甚カラス為メニ孫袁ノ一
 派ハ目下孤立ノ地位ニ立ケ漸次北京派ノ勢
 力ニ壓倒セラルノ觀アリト云フ而シテ常
 ニ南方出身官吏ノ勢力ヲ羨望シ趙都督ヲ
 排斥シテ自ラ執テ代ラントスル野心ヲ抱藏
 在奉天日本總領事館
 セシ張作霖一派ハ此機ニ乘リテ同會ニ近
 ツキ北京派ト結ビ近時漸ク趙都督ノ
 施政ニ反對シ及南清出身官吏排斥運
 動ヲ開始シ過日來之カ為淘汰セラレタル
 者甚カラスナル狀況ナリ同會々員ハ何レモ
 當地方ニ於テ相當ノ地位ヲ有スル者若クハ新
 進ノ大小官吏ヲ以テ網羅サレ居ルノミナラ
 ス別人派ト聯絡ヲ通シ一致ノ步調ヲ取
 ルニ至リ收ルカ為目下奉天第一ノ政黨トシテ
 益々其勢ヲ張ルニ至レリ而シテ親趙都督派
 タル孫百斛袁金凱等モ近時漸ク排斥
 趙都督ニ款ヲ通シ漸ク其地位ヲ保ケワハ
 リト云フ然レモ同會カ飽迄趙都督ヲ排斥

セシカ爲ニ張作霖一派ノ利用ニ甘スヘキヤ否ヤ
ハ頗ル疑ハシキ問題ニシテ之等ノ爲ニ將來
多少ノ波瀾ヲ生スルニ至ルヘント觀測サレ
ハアリ

共和黨

同黨ハ最近ニ於テ當地ニ創立セル統一黨支
部ト民社支部トヲ合併シタルモノニシテ黨勢
ニ於テ當地四政黨中前記俱進會ニ並ク
モノナリ元來民社ノ成立ハ俱進會ト同時
期ニアリ元當地混成協統領タリシ藍天
蔚部下ノ志士カ其命ヲ受ケテ當地ニ支
部ヲ設立シタルモノナリシカ當時尙ホ趙
毅ハ民黨ニ對スル壓迫ヲ弛メス爲ニ同支

在奉天日本總領事館

部ハ維時頗ル困難ノ状態ニアリシノニナ
ラス其後現奉天塩運司使周肇祥及
勸業道陳棋等カ早クモ時勢ノ推移ニ
顧ミ同支部ニ對抗スルノ目的ヲ以テ統一
黨支部ヲ組織シ自ラ其首領株トナリ
專ラ官恩ヲ誘致シテ黨勢ヲ張り充
爲民社益々苦境ニ陥リタル觀アリシ
カ偶々中央ニ於テ統一黨及民社等數派
ノ合併熱高マリタル際當地ニ於テも同
様ノ議起リ民社ハ遂ニ統一黨ノ合併ス
ル意趣トナリ共和黨ト改称シテ今日ニ至レリ
目下同黨ノ勢甚々振ハス又活動振ノ
見ルハキモノナリト雖モ尙周肇祥陳棋

等ノ外省出身者主腦トナリ親趙督派ヲ以テ任シ俱進會ト金ク反對ノ地位ニ立ケ之ト對抗シフ、アリ故ニ張作霖ノ外省人排斥派ノ勢力ヲ得ルニ從ヒ同會ハ之ト政權ノ爭奪ヲナスニ至ルヘント云フ

三 關外五族共和聯合會支部

同會ハ前二者ト稍其主義ヲ異ニシ專漢滿蒙回藏五族ノ統合ヲ圖ルヲ其目的トシリ同會ヲ組織スルニ至リタルハ近時滿蒙回藏ノ四族ヲ漸ク漢人ヨリ離隔セシムルノ傾向アルヲ憂ヒ袁總統ノ發意ニ出テ趙秉鈞等發起者トナリテ組織セルモノニシテ當地ニ其支部ヲ置ケリ同會ハ所謂

在奉天日本總領事館

政黨トシテハ其組織及標榜スル所ノ主義ニ於テ稍々欽ケル所アルカ如キモ將來民族間ニ於テ起ルヘキ問題例ハハ八旗生計問題或ハ滿蒙人墾墾權獲得問題等ノ起ルニ從ヒ多少ノ活動ヲ見ルニ至ルヘント予測セラル而シテ同會ハ組織ノ性質上滿洲ニ於ケル會員頗ル多ク且シテ全國ニ亘リテ多數ノ支部アリテ全体ヨリ之ヲ見レバ尤モ有力ナルモノナリト云フ

四 同盟會支部

同會ハ孫逸仙ノ首唱ニ係ル民主主義ヲ宗旨トスルモノニシテ當地支部ハ本年七月二十八日漸ク發會式ヲ舉ケ自下會員トシ

テ名ヲ録スルモノ八十余名アリ設立日尚未決
ク党勢ノ見ルヘキモノナシト雖モ支部會長
丁萬鈺評議員王蔭棠ノ如キハ省議會
議員トシテ有力ノ地位ヲ占ムルモノナレハ後
日或ハ活動ノ時機アルヘシト云フ
右友報告候 敬具
退而本修寫ハ伊集院公使ヘモ及送
付置候

在奉天日本總領事館

第3号

臨時政府

外務省

支那國民黨の宣言

同盟會統一共和黨、國民黨、國民協心會及び共和促進會の五政黨は袁世凱が共和憲法を提議して參議院を組織し且其背後に軍警の勢力を控へて専横の行爲多きを憤り大政黨を組織して之を要するに同時に政黨政治の扉を開くを急要なりとし去十三日北京において五政黨の合同式を挙げ長文の宣言書を発表したり其宣言書は先づ共和立憲の成績を擧げんと欲せば必ず組織あり綱紀ある政黨なるべからず政黨は實に政治運用の中心なりと脱き大要左の如く述べたり

一、我々が先づ共和立憲の成績を擧げんと欲せば必ず組織あり綱紀ある政黨なるべからず政黨は實に政治運用の中心なりと脱き大要左の如く述べたり

二、我々が先づ共和立憲の成績を擧げんと欲せば必ず組織あり綱紀ある政黨なるべからず政黨は實に政治運用の中心なりと脱き大要左の如く述べたり

三、我々が先づ共和立憲の成績を擧げんと欲せば必ず組織あり綱紀ある政黨なるべからず政黨は實に政治運用の中心なりと脱き大要左の如く述べたり

四、我々が先づ共和立憲の成績を擧げんと欲せば必ず組織あり綱紀ある政黨なるべからず政黨は實に政治運用の中心なりと脱き大要左の如く述べたり

五、我々が先づ共和立憲の成績を擧げんと欲せば必ず組織あり綱紀ある政黨なるべからず政黨は實に政治運用の中心なりと脱き大要左の如く述べたり

一、我々が先づ共和立憲の成績を擧げんと欲せば必ず組織あり綱紀ある政黨なるべからず政黨は實に政治運用の中心なりと脱き大要左の如く述べたり

二、我々が先づ共和立憲の成績を擧げんと欲せば必ず組織あり綱紀ある政黨なるべからず政黨は實に政治運用の中心なりと脱き大要左の如く述べたり

三、我々が先づ共和立憲の成績を擧げんと欲せば必ず組織あり綱紀ある政黨なるべからず政黨は實に政治運用の中心なりと脱き大要左の如く述べたり

四、我々が先づ共和立憲の成績を擧げんと欲せば必ず組織あり綱紀ある政黨なるべからず政黨は實に政治運用の中心なりと脱き大要左の如く述べたり

五、我々が先づ共和立憲の成績を擧げんと欲せば必ず組織あり綱紀ある政黨なるべからず政黨は實に政治運用の中心なりと脱き大要左の如く述べたり

支那國民黨の宣言

支那國民黨の宣言

秘受0689號

大正元年九月 拾日 接獲 善政務局

機密第一七 號

办

第一課



以

在鐵嶺

領事 青田 寅三



外務大臣子爵内田康哉殿

支那に於ける政黨結社調査

關スル件

本件、關シテ九月十四日付機密送第二號ヲ以テ
御來示相成致敬兼美依リテ調査致美也
當管区内に於テ目下ノ処政黨結社ト認ムベキモ
ノ無シ之矣間右様御美知相成度此致回矣

在鐵嶺日本帝國領事館

申進候

敬具

另封入

(御用印)

文書課長 長檢印

大正元年九月拾貳日接受

海書

手紙 旅支 送第 號

大正元年九月十一日起 同日 十月十二日附

送第 號

有附屬物

政務局長

大正元年九月拾貳日接受 政務局長

美青池人

在在

大正元年九月十一日

手紙 旅支 送第 號

第 9 門

手紙 旅支 送第 號

送第 號

第 3 門

文書課長
長檢印

大正元年九月拾貳日接

明治 年 月 日 起

大正元年九月十二日附

送第 號

主管 政務局長

手形... 附屬物... 45

海軍省 原 水田

在法... 使

中田... 氏

在法... 領事

(任... 領事)

任... 領事

在法... 領事

在法... 領事... 任... 領事

在法... 領事... 任... 領事

在法... 領事... 任... 領事

在法... 領事... 任... 領事

在法... 領事... 任... 領事

在法... 領事... 任... 領事

在法... 領事... 任... 領事

文書課長 文書課
長 檢印

大正元年九月拾貳日 接受

46

簿書 校正 原田

代

大正元年九月十一日 起算
同 年 八月 十一日 附

送第 三二 號

主管 政務局長

大正元年九月拾貳日 接受



有附屬物

主任

第一課

文書課長 原田

シ形 諸元 百老 及 陸 水 物 此 所 用

上海

内白 有

右 吉 信 係 奉

支 那 子 於 先 政 務 局 係 記 事

支 那 子 係

外 務 省

第 3 門

支 那 子 於 先 政 務 局 係 記 事

支 那 子 於 先 政 務 局 係 記 事

支 那 子 於 先 政 務 局 係 記 事

支 那 子 於 先 政 務 局 係 記 事

(支 那 子 於 先 政 務 局 係 記 事)

郵政切

被受0788 聯

大正元年九月拾六日 接獲

主官 政務局

第 一 號

大正元年九月十日

在新民府

分館主任 北條 大 洋

奉天日
新民府分
館主任

外務大臣子爵内田康哉殿

支那に於ける政黨結社調査ニ

関する件 回答

本件ニ関し客月十四日付機密送葉ニ辨書
信を以て御下命の改葉を有之たまふ處き地

奉天總領事館新民府分館

方官紳ハ一般ニ政黨結社ノ設立ヲ悦ムズ
從テ人テ日近其成立セシモノ一モ急之ニ
尤モ一時奉天ヨリ來リ或種政黨ノ創立ヲ
試シムト企テシルモノ一ニアリタル由及聞
一一般ノ氣受ケテ思ヒテ遂ニ不成効ニ終リタル
趣ニテ右報告申進奉敬具

大正元年九月十八日

機密第三號

主權政局

第一課

大正元年九月十八日

外務省書記生若水覺生

外務省書記生若水覺生



外務大臣于府内田康哉殿

支那に於ける改憲結社調査案を件

本件は、漢に於て九月十四日付機密第二號に
以て御中致し、郵政省及び郵承部並に通
り各地方へ人口稀薄を以て其大部分は下
級農長又ハ苦力等、労働を以て有る少

在間嶋日本總領事館局子街分館

数、官吏農人地主等ハ地方自治會、
設立及革命軍等、新思潮、政治、少
政治的智識の有る、外一級任長、政治
思想極メテ固く、隨而少數先覺者上層を
政治上一定、主義の有る、其之現存、
於てハ、改憲又ハ秘密結社等、組織
中ハ、最近ハ、其之候、尚已ハ、陶道、
直會、等、選挙準備等、難行、
先、未、当、地方、改憲、政治、有る、皆、同
改憲、政治、存在、する、事、ナキ、モ、其、其、知、覺
組織、ハ、徳、通、え、考、へ、る、旨、談、話、有、る、候
向、右、様、以、り、了、事、成、上、山、島、ハ、御、教

告候教具

在間嶋日本總領事館局子衛分館

REEL No. 1-0933

0132

附屬書類添附

大正元年拾月拾六日接受 警政務局

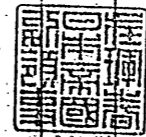
第一課

機密 第六號

大正元年九月三十日

在 輝春

副領事大賀 亀吉



外務大臣子爵内田康哉殿

支那ニ於ケル政黨結社ニ関シ報告

支那ニ於ケル革命事變ニ伴ヒ組織セラ

レタル政黨結社ニ関シ調査方去ル八月十

四日付機密送第二號ヲ以テ御訓達

ニ趣致、領悉候右ハ別紙調書ニ依リ御

承知相成候様致度此段御回報申

在外公館

進候 敬具

ヨリ

機密

秘受 1375 號

琿春ニ於ケル政黨ニ関スル調査

一、黨名又ハ結社名

琿春ニ於テハ統一共和黨ノ一政黨アルノミナリ(故ニ以下列記スル所ハ總テ此党ニ関スル事項ナリトス)

二、主義及綱領

後ニ添付セル黨則第二條ニ掲載セル

一、行政區域ヲ釐定シテ以テ中央統一ヲ謀ル

二、税制ヲ釐訂シテ以テ負担ノ公平ヲ期ス

三、民生ヲ注重シテ社會政策ヲ採用ス

四、國民ノ高工業ヲ發達シ保護貿易政策ヲ採用ス

五、幣制ヲ劃一シ金貨本位ヲ採用ス

六、金融機關ヲ整頓シテ國家銀行制度ヲ採用ス

在外公館

七、鐵道幹線及其他ノ交通機關ヲ建設ス

八、軍國民教育ヲ實行シ專門學校ヲ促進ス

九、陸海軍備ヲ振興シ徵兵制度ヲ採用ス

十、海外移民ヲ保護シ邊境開發ヲ勵行ス

十一、文化ヲ普及シ國內民族ヲ融和ス

ノ十一項ノ政綱トセルモ未タ内外ノ政治問題又ハ政策等ニ付具體的ノ黨見ヲ發表シ又ハ活動セル現状ナシ

三、事務所所在地

琿春ニアルモノハ統一共和黨ノ支部ニシテ其事務所

ハ琿春城内支那電報局内ニ在リ

本部ハ結黨ノ當時ニ於テハ上海ニアリシト虽目下ハ

南京ヘ移轉セリト聞ケリ然レトモ本部トノ通信等

ハ直接ニ之レヲ行ハヌシテ吉林ニ於ケル同黨支部

ヲ經由シ居レリト云フ

四、成立時期

明治四十五年五月中ナリ

五、役員及重ナル會員

當地支部ニ於ケル黨員ハ十中ノ八九官公吏ノ網羅シタルモノナルモ陸軍々人ニシテ入黨シタルモノナク滿人ニ於テハ僅カニ一名ノ在黨員アルノミ右ノ如クナルヲ以テ役員モ總テ當地ニ於ケル官公吏ニシテ特記スヘキ經歷ヲ有スル者ナシ役員及其姓名左ノ如シ

黨役員名

職業

姓名

支部長

譚春廳同知

彭樹棠

總務幹事

商務會員

李茂棠

他ノ一名ハ欠員ナリ

在外公館

參議

統稅局總理

馬毓現

初級審判廳推事

韓新文

初級檢察廳檢察

王徳化

電報局總理

毛少卿

巡警局員

李獻元

商務會總理

李茂棠

譚春廳々員

陸雪溪

商務會員

蕭仁堂

外ニ文牘幹事、會計幹事、交際幹事、庶務幹事各二名アル規定ナルモ黨員モ少ナク黨務モ多クアラザルニヨリ未タ其任命ナシト云フ

六、現在ノ黨員數

三四十名ニナリ

七、其勢力範圍下ニ属スル重ナル地方及在外支那人トノ關係ノ有無

黨ノ勢力ハ琿春廳管内丈ケニシテ在外支那人トノ何等關係ナシ

八、前清時代ヨリノ有力者トノ過去及現在ニ於ケル關係

當地方ニ於テハ今次ノ支那革命ニ伴ヒ何等官場

ニ變動ヲ見スレテ本黨ヲ組織セル官公吏モ總テ前

清時代ヨリノモノナルカ故ニ過去及現在ニ關係ナク

當地方滿州旗人ノ筆頭タル旗務承辦處提調

貴慶ノ如キ若シタハ富有旗人ヲ以テ目スヘキ議

事會々長海全ノ如キハ入黨シ居ラズト雖黨ニ

對シテハ善悪共ニ何等ノ意見ヲ抱持シ居ラザル

モノ、如シ

在外公館

九、黨ノ狀勢

(一) 成立以來ノ沿革大畧

本年五月支那六次政黨合併シ統一共和黨ヲ組織

シタル旨ヲ以テ當地商務會ニ其入黨支部設立

シ電促レ來リシニヨリ今月末今會事務所ニ會合

シテ其設立ヲ議シ役員ヲ撰擧シ不取敢當地

電報局ニ空問アルヲ借リテ事務所ヲ設ケ毎月

二回會合シテ談話ヲ交換スル事ニ定メ以テ今日ニ

至レリ

(二) 政界ニ於ケル勢力

未タ具體的活動ノ形跡ナキヲ以テ記述スベキモノナシ

(三) 中央及地方政府ニ對スル態度

官公吏ヲ以テ組織セルモノナルニヨリ中央及地方政府

ニ對シ何等反抗的態度ナシ

(三) 他黨ニ對スル關係

他政黨ニハ未タ關係ナキモノ、如レ

(四) 地方民ノ氣受

當地ニ黨支部ノ設立セラレタルニ關シテハ一般地方民
ハ何等ノ感想モナク其存在ヲモ知ラザル者多シ

(五) 黨ノ維持方法又財源

財源ナク黨員ノ出費ニ係リ規則第二十三條ニ謂
フ所ノ常年捐四元ヲ以テ其費用ヲ辦シ居レリ

(六) 黨勢ニ關スル將來ノ豫測

前述ノ如ク支部員ハ官公吏ヨリ成リ當地地方ニ他
ニ政黨ナキヲ以テ一般民人ノ政治思想ノ發達
ニ伴ヒ漸次其大ヲ致スヘキハ言フ俟タザル所ナル

在外公館

ニ似タルモ義政網ニ賛成シタリト謂ハンヨリ寧_ニロ

附和雷同的ニ組織セラレタルモノナルヲ以テ本部

ノ黨勢ニシテ隆盛ナル間ハ繼續スヘキモ若シ中央

ニ於テ黨勢ノ衰退ヲ見ハ即チ瓦解スルナルベシ

十、附屬事業

ナシ

(別紙黨則ヲ添付セリ)

以上

統一共和黨理春分部規則

第一章 總綱

第一條 本黨遵照本部所定以鞏固全國統一建設克己共和政治循世界之趨勢展國力力圖進步為宗旨

第二條 本黨政綱遵照本部如左

(一) 釐定行政區域以謀中央統一

(二) 釐訂稅制以期負擔公平

(三) 注重民生採用社會政策

(四) 發達國民商工業採用保護貿易政策

(五) 劃一幣制採用虛金本位

(六) 整頓金融機關採用國家銀行制度

(七) 速設鐵路幹線及其他交通機關

(八) 實行軍國民教育促進專門學術

在外公館

(九) 振興海陸軍備採用徵兵制度

(十) 保護海外移民勵行實地開墾

(十一) 普及文化融和國內民族

第二章

第三條 凡具有公民資格年滿壹拾歲以上者皆得為本黨

會員

第四條 凡欲入黨者須由本黨會員二人介紹經部長認可

方為有效

第五條 黨員入黨時須納入黨捐一元

第六條 本黨會員皆得被選任為本黨職員

第七條 本黨會員皆有忠實本黨之義務如欲脫黨時

須提出理由書經部長認許前未經此手續不得即

入他人之政社

第二十八條及第二十九條
大略也

第八條 本党々員如在外經營党務須隨時報告本党
第九條 本党々員如違背本党規約及以個人行為敗壞全
体名譽者經職員多數議決由部長宣告除名

第三章

第十條 本党設部長一人總務幹事二人參議八人文牘
幹事二人會計幹事二人文牘幹事二人庶務幹事
二人

第十一條 部長代表分部黨員主持一切党務

第十二條 總務幹事贊襄部長辦理党務

第十三條 參議々決本党重要事務

第十四條 文牘相頁各地往復書讀並保管記錄一切

第十五條 文牘專理接洽党員及聯絡事務

第十七條 庶務整理本党一切雜事

在外公館

第四章 選任職員及任期年限

第十九條 部長總務幹事及參議由全体大會投票公舉

第二十條 文牘會計文牘庶務由部長總務幹事高同參議
公推

部長未舉足以前由總務幹事會同參議辦理

第二十一條 以上職員任期均以一年為限但得連任如有欲
負時照第十九條第二十四條辦理

第二十二條 本党開會分定期會特別會通常會三種

(一)定期會每年一次由部長於國會開會前定期招
集各黨員開全体大會但須於十五日以前將開
會日期及提議事件預為通告以備研究

第五章 開會時期

(二)特別會遇有重要事件發生時由部長招集

(三)特別會遇有重要事件發生時由部長招集

(四)特別會遇有重要事件發生時由部長招集

(五)特別會遇有重要事件發生時由部長招集

(六)特別會遇有重要事件發生時由部長招集

開議或經職員二分之一黨員三分之一之請求亦得開特別會議

(三) 通常會每半月由職員全體開會一次

第六章 黨費

第三條 本黨之費分入党捐常年捐特別捐三種入党捐每人一元彙交本部常年捐四元分一占兩月交納特別捐無定額由黨員自由捐輸黨員一年以上不繳常年捐又不通告理由者即宣告除名

第二十四條 本黨每歲出入款項於年終十二月內由會計造具表冊經參議檢查後即錄榜宣布全體員週知

第七章 分部與本部支部之關係

在外公館

第二十五條 本黨之員各冊按日造送支部轉寄本部存查

第二十六條 本黨對於本部支部有維持及調查報告之責但本部支部遇有重大事件亦應隨時報告本黨

第二十七條 本黨之員與本部支部各黨員權利義務均為同等

第二十八條 本黨遇有重要事件關係全省或全國者得提議於支部或由支部建議於本部

第二十九條 本黨集款除將入党捐彙交本部外其維持本部經費應屆時酌量本黨情形辦理

第八章 附則

第三十條 本黨規約由發布之日起即生效力如有

碍難施行之處得由職員三分之二提出開
特別會議決變更修改之

在外公館

具志願書

樂

一統 貴黨政見相同由

君介紹

共 願為本黨員所有權利義務自當

和 照章辦理特將履歷開列於左

志 別名 年數 籍貫
出身 職業 通信處

願 具志願書人 介紹人

書 輝春分部公廳

中華民國 年 月 日

REEL No. 1-0933

0141